

2020年7月1日

幼保連携型認定こども園 **YMCA 保育園 7月えんだより**

7月の聖句 『 今日を喜び祝い、喜び踊ろう。 』

< 詩編 118 編 24 >

夏へと進む、梅雨の蒸し暑さを感じる季節となりました。やっと園内に子ども達の声が響き渡り、再会の喜びと保育の再開を実感する日々を送っています。改めまして、長い間のご協力やご支援に御礼を申し上げます。そして、今もなお、感染症で苦しみ、悲しむ方々に、心の平安をお祈りいたします。

さて、緊急事態宣言下においては、様々なことに思いを巡らせたり、馳せたりしたこともあったかもしれません。ご家族やお仕事、ご友人や自らの人生まで、感染症禍は、今まで常識であった出来事や課題を表出させて、私たちに考えさせられる機会でもありました。何名かの保護者の方にお聞きしますと「当たり前にあった毎日が、どんなに良かったか」というお話やお手紙もいただき、私達も、日々当然のように過ごしてきた時間や交わりを振り返る時でもありました。

私達は、楽しいことがあった時には喜びます。自分が願っていたことや期待していたことが実現した時には、心から喜びますが、人によっては、自分にはそのような時はなかった、それどころか、辛い経験を繰り返し、心や体に傷を負い、喜び祝うなんて、とんでもないと感じる方もおられることでしょう。笑顔の時もあれば、目に涙する時もあります。しかし、それでも、私たちの毎日は、神様の愛の眼差しの下にあり命が与えられています。神様が一人一人に、与えられた賜物を用いて、世に使うようにと今月の聖句は伝えています。何気ない日常は、驚くべき神様の御業とたくさんの人々の献身的な働きによって支えられ、与えられています。だからこそ、「今日」という日は、一人一人にとって「喜びの日」であり、「恵みの日」であるということなのです。そうした考えに立ちますと、自分だけの力ではなく、神様の愛と多くの人々の支えによって、「今日」を過ごすことが許されていることを喜びたいと思うのです。毎日園の門をくぐって登園をすること、毎日出会い、言葉を交わして、思いを伝えあうこと、日々食事が与えられること・・・全ての出来事が当然ではない、喜びであることなのだ、改めて感染症禍が一旦収束したこの時に感じるのです。この貴重な体験を子ども達と分かち合い、与えられた糧として、一人一人の力となるように導いていけるようにと願います。

年主題聖句 「喜びと平和とであなたがたを満たす」

<ローマの信徒への手紙 15章 13節>

7月	乳児 (0,1,2歳児)	幼児 (3,4,5歳児)
月主題	いいきもち	やってみる
月の願い	* 夏の自然にふれ、遊びや生活を楽しむ。  * 水・砂・泥の感触に親しむ。	* 神様の創られた自然に触れ、親しむ。  * 土・砂・水に存分に触れて、心も体も解き放って遊ぶ。  * 健康に過ごすための生活習慣を身につける。
讃美歌	虹のかけ橋 川上牧師	